

宝塚第一小学校教育環境適正化検討委員会
第5回 会議概要

開催日時	令和6年(2024年)3月14日(木) 10:00~11:40
開催場所	宝塚市役所本庁舎4階 3-3会議室
出席者	【委員】15名 【教育委員会事務局】4名
次第・議事	1 開会 2 報告 通学区域の弾力的運用について(結果報告) 3 議題 令和6年度学年別児童受入数について 4 閉会
会議の主な結果	・通学区域の弾力的運用の結果の報告と分析の仕方 →令和6年度以降も引き続き取り組んでいく方向で調整する。 ・宝塚第一小の児童数が維持或いは増えていくこと想定した際の対応として、増築なのか、校区変更なのかを検討。校区変更においては、将来的に小中一貫校も見据えた校区変更というものを考えておかないといけない。
会議録(要旨)	
事務局	【1 開会】 【2 報告】 〈資料1の説明〉
委員長	報告について、何か質問、ご意見等あるか。
委員	「2 現在在校生(6年生も含む)」について、対象者数が1,079人にも関わらず、回答者数が21人ということで、回答保留者も含めて、結果が返ってきていないが、回答を出さないということが、宝塚第一小にそのまま就学するという考えでの未回答ということか。もしくは、調査書の中にそういうことが書いてあって、この結果なのか。保護者の気持ちの問題と思うが、その辺りはどうか。
事務局	回答があったのが21人で、それ以外の方は回答されていない。回答者の中には、就学学校を変更しないという方もいるが、ご意見をいただいたりしている。
委員	残りの方は、皆さん未回答ということか。
事務局	その通りである。
委員	変更しない場合は、回答しなくてもよいというアンケートだったのか。
事務局	その通りである。
委員	そこを付け足して欲しかった。

事務局	変更を希望される方は、回答をお願いしますというアンケートだった。
委員	変更を希望しなくてもご意見がある方から回答があったということ。
委員長	変更をしない17人の方は、あえて回答をされたという理解でよろしいか。
事務局	そういうことになる。自由記述の回答欄を設けていたので、ご意見がある方は、そこで回答していただくことになる。
委員	ご意見の中身について、教えていただくことは可能か。
事務局	<p>何点かご意見をいただいているので、かいつまんで説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択制で保護者に選ばせるのではなく、校区を再編した方がいいのではないか。 ・転校を希望されている方が、何名ぐらいいるか教えて欲しい。 ・転校先で、末広小、逆瀬台小、西山小を選択できるが、それらの学校の見学や学力を知りたい。 ・宝塚第一小に入学する前に、この制度があれば、西山小を検討したかった。 <p>以上のようなご意見をいただいている。</p>
委員	ご意見の中で、選択先の学校の見学ができたらいいとあったが、今後、通学区域の弾力的運用を続ける上で、そういう機会を設けるとか、対策を考えているか。
事務局	在校生の保護者から学校を見学したいというご意見もありましたので、オープンスクールであるとか、意向調査をする前に選択可能校には、見学期間を設けられないか相談をし、そういうような場を設けたらと考えている。
委員長	回答者数が21人で、変更を希望しなければ回答しなくてもよいという調査だったが、1,079人に対して21人というのは、非常に回答者が少ない。この辺りはどう考えるか。
事務局	ご意見を聞いていると、友達関係ができてきているというのが大きな要因としてある。それと、中学校が校区の中学校に通わないといけないというところで断念されたという話も聞いた。やはりそこがネックとしてあったのではと考えている。通学区域の弾力的運用の説明会も夏休みに実施し、周知の場を設けたが、変更を希望されている方は回答してくださいとしていたので、変更を希望される方しか回答しなかったのだと思う。次年度も同様の取組を実施する場合、回答期間が短いという意見もあったので、回答期間を長く設けるとか、今年の実績を活かした上で、対応したいと思う。
委員	この結果は、保護者の方に連絡がいつているのかということと、個別に意見をいただいた方に対して回答はしているか。

事務局	個別にご意見をいただいた方に対しては、特に回答はしていないが、迷われている方については、何回かやりとりはしている。結果の報告については、個人の特定につながるもので、特に市 HP 等で公表はしていない。
委員	もし、希望があれば教えてくださいということであれば、教えることができるレベルなのか。
事務局	他に迷われている方が何名いるかとか、そういうようなことは回答できるかなと思う。今回はそういう問合せはなかったが、今後あれば回答は可能である。
委員	こういうアンケートを実施した場合に、聞きっぱなしではなくて、知らせるということも大事かなと思う。
事務局	学校名は出さず、〇名の方が他校を選択しましたというのは、お知らせできると思うので、市 HP に掲載する等して周知方法を考える。
委員	市 HP とか、大々的なものではなく、保護者だけに文書でお知らせするとか、保護者の方が安心するような対策がもっとできるのかなと思う。
事務局	確かに保護者の方に照会をかけるだけで、結果は何も教えないような状況になっているので、新年度に実施する際に、昨年度の実績を掲載する等、周知できたらと思う。
委員	アンケートをとる時に、まず保護者に学校選択制をするという説明がされ、その後にアンケートが配られたと思うが、その説明会にはどれぐらいの保護者の方が来られていたのか。説明会があることを保護者の方は知っているのか。そして、アンケートが配られたところで、家庭がきっちりと把握された上で、これだけの回答なのか。紙でアンケートを配った場合、子どもが親に渡さないケースがかなり多いと思う。だから、親御さんがちゃんとアンケートを見ての回答なのか。それと、記名式か無記名式で回答なのかというのを知りたい。
事務局	まず、保護者の方へのお知らせだが、紙の文書だけではなく、スクリレというデジタル配信ツールの 2 つの方法で周知をしている。夏休みに通学区域の弾力的運用の説明会を 7 月に 3 日間行った。その際に会場での説明会に加えて ZOOM でも参加できるようにして、139 名の方に参加いただいた。回答については、記名式の回答である。
委員	1 回目の反応がこのような結果だが、積み重ねていかないと浸透しないと思う。来年、再来年度も継続することを考えているか。
事務局	在校生については今年度のみと考えていたが、適正化検討委員会の場で 1 年だけでは分からないこともあるので、継続した方が良いということになれば、継続に向けて考え

	ていきたいと思っている。
委員長	この139名は比率から言うと、1割弱になるが、どのように考えているか。
事務局	<p>説明会について、ZOOMでも参加できるようにし、時間帯も平日の午前と午後、平日に参加出来ない方に対して日曜日の午前に行い、139名という結果なので、周知不足もあるが、保護者にとって関心がそこまで無かったと考えている。</p> <p>通学区域の弾力的運用の通知文にも、宝塚第一小学校の課題を記載し、HPに取組事項を見ることができるようになっているので、この取組を通じて、保護者の関心を高めていけたらと考えている。</p>
委員	このまま来年度実施しても結果は変わらないと思う。保護者の目的が定まっていない気がして、危機感という言い方が正しいかは分からないが、このことに対して考えていけないことを突き詰めていけないといけない。アンケートと結果報告では前に進むことが出来ない。その辺が見えてこない。
事務局	現状で満足されている方が結構な数を占めている。そこへの問題提起をどうしていくか課題である。
委員	人数が減らなかった結果を踏まえ、次のことを考えていけないといけない。校区編成はどうかという意見があった中で、それを次は実施していけないといけない。学校を変えられる人が少なければ、学校規模もそのまま増えていだけなので、これを基にして、変わってもらうために、どうしたら良いかを考える。現状を改善する方法を他にどう変えていくのかもアンケートを見た上で、お聞きしたい。
事務局	<p>全国的な傾向になるが、根本的には、小学校に対する帰属意識が強い。距離ではなく、その学校ということに通い続けられる傾向にある。宝塚の校区の中でも家の道の前を隔てれば、別の学校区があるけど、そこから離れた学校に行かないといけない場合もある。それでも目の前にある学校に行かせてくださいという事例はごくわずかである。それくらい指定された学校へ行くのが、保護者の心理の中で強く占めている。希望してどこかへ行きますかという投げかけをしても、よほど今の学校に何かが無いとか、別の学校に魅力が無い限り、移っていかない傾向にあるので、通学区域の弾力的運用で大きく人が流れていく見込みは当初から持っていなかった。ただ、わずかでも変われば、学級数が変わることもある。また、受け入れる学校も少し来てくれることによって、学級数が増え、先生の数も増え、学校が活性化する。今回は、大きく人数が動かず、学級数も減らなかった中で、今後どうしていくのかを今日の議題に挙げている。</p> <p>受入れが出来なかった時の検討事項は2点あって、何らかの手段で教室数を増やす増築という考え方と校区変更である。仮にマンションに想定以上の人が来た場合は、どちらかの方策を実行しないとけない。それをどっちだと決めると、地域や保護者の方々に不安を与えてしまうことになるので、まずは両方検討しておくべきだと思う。増築す</p>

委員	<p>る場合、どんな増築ができるのか、どの程度の規模ができるのか、どの程度の工事期間が必要になるのかという教育委員会でしか出来ない検討になる。一方、増築が出来ない場合や増築だけでは対応が出来ない場合として、通学区域の変更になる。ここについては、地域や保護者の意見を聴きながら、検討していかないといけない。今回の通学区域の弾力的運用の結果から、考えられるのはこの2点になる。</p> <p>現状が1,079人ということだが、転校の方も含めて新学年は何人になる見込みか。それと、校区変更や増築を検討する前に、保護者の方には窮屈感が無く、環境を変えることが必要と思っているのか。教育環境が悪いというのは、宝塚第一小学校にずっといるので、他の学校と比較出来ないと思う。教育環境を変えることが必要なのかという基本に戻ってしまう気がする。改めて、新年度は何人になるか。</p>
事務局	<p>資料2に令和6年1月31日現在の在籍見込みを記載している。</p>
委員	<p>保護者に考え方を変わってもらうことを期待するより、教育委員会や学校にお願いしたいのが、今までとは違う学校教育を受けることができる提案等をしてもらいたい。今も十分に教育してもらっていると思うが、大きく変えていかないと。</p> <p>学校の位置が真ん中にあるわけではないし、長寿ガ丘では選択をすることも出来ない。そういう校区という認識を教育委員会は持たれているのか。それがマンションの建設に伴い、慌てて理解を求める動きをされるのは違うのではないかと思う。</p>
事務局	<p>転校していただくことによってメリットがあれば、保護者の中で検討していただくきっかけになると思う。ただ、公立小学校のこの学校だけ特別に0時間目と7時間目を用意して、学習を強化しますと出来れば良いが。授業時数を増やすのが良いのか、学校を綺麗にするとか、新築にすれば魅力は出るかもしれないが、公立小学校で差を付けるのは難しい。</p> <p>周辺校は西山小学校を除いて、いずれも規模の小さい学校で、きめ細かく子どもを見ることができているので、学校の特性等を含めてしっかりと学校紹介をするべきだった。それを通じて、周辺校の良さを知っていただき、それであれば転校しても良いという思いになる働きかけが必要だと思う。今後、そういう視点で検討していきたい。</p>
委員	<p>現役の保護者の立場で話をさせていただくと、保護者は危機感というのは全くないと思う。なぜかと言うと、宝塚第一小を選んできているわけだから。私も引っ越しして、宝塚第一小に3年間通わせているが、生まれも育ちも宝塚南口の方は選ぶ余地がない。でも、マンションの場合は、選んで引っ越ししてくることになる。この弾力的運用というのは、保護者にお願いということなので、もう少し時間かけても良かったかなと思う。あまりにも時間が過ぎすぎて、保護者も考える暇がなかった。</p> <p>後、中学校については、よく分からなかったなので、どうしたらいいか分からない保護者が多数おられた。実際、検討しようと思っている人もたくさんおられた。そういった意味で、1回で終わりではなく、宝塚第一小が抱える問題を初めて保護者が分かったの</p>

	<p>で、それだったら違う学校に行ってみようかなということ。先ほど、事務局が言った増築や校区変更というの、来年からすぐにはできないわけではないので、継続すべきではないかなと思う。継続することに意味があると思う。今回やってみて、ゼロではなかった結果を踏まえ、次の増築や校区変更。校区変更をしても、結局、宝塚第一小に行きたい人は引っ越ししてでも行く。だから、校区変更もあまり意味がないと思う。私は、増築・校区変更ということであれば、増築しかないと思っている。今年はプールを再開したが、4年生で顔をつけれない子がいる。これはコロナの弊害と思っている。こんなに児童が多いから、たった数回しかできない。させてあげれないというのは、大きな問題である。我々昭和の時代は、習い事もなく、学校に行けば泳げていたのに、今は習い事をしないと泳げない。こういう風にもなっているので、そこは、ちょっと考えてもらいたい。この弾力的運用は1回だけではなく、何回かして、それを踏まえて、他の方策とかを考えるべきではないかなと思う。</p>
委員	<p>最終的には、校区編成は必要と思う。逆瀬台小みたいに、各学年1学級という学校が隣にあって。宝塚第一小もいっぱい。後、先ほど話があったが、在校生はやっぱ友達関係のことがあるので、途中から別の学校に行くというのは、ほとんどないと思う。だから、新1年生をターゲットに、弾力的運用をやっていったらいいのではと思う。最終的には、宝塚第一小の環境問題を考える時にここが最終的な課題と考えて、この会議に出てきた。すぐにするというのは大変なので、その間、この弾力的運用を併用し、最終的には校区編成が必要になってくる。昔からの住宅街も世代交代が進み、新しい世代が入ってきて、もう何年かしたらその世代の子ども達も小学校なので、マンションだけではないと思う。宝塚第一小校区もどんどん児童も増えてくるので、先ほど言ったように並行してやっていっていただきたいなと思う。</p>
委員長	<p>その点はどうか。</p>
事務局	<p>先ほど2つの意見があったが、もちろん校区変更と増築の話というのは並行して進めていく。その間に通学区域の弾力的運用を1回目では結果が見えないというところもあるので、継続して取り組むべきと考えている。特に新1年生というご意見もあったが、在校生の保護者の中には悩まれている方もいると聞いていたので、来年度の実施については、宝塚第一小の周辺校への説明であるとか、後は、中学校にも説明し、来年度も継続していいかというのは、こちらで調整していこうと思う。</p>
委員	<p>今、子ども達がプールになかなか入れない弊害があるという話があったが、人数が増えたことによる弊害として、他の学校では普通に受けることができることが、出来ない状況になっている。運動場での遊びの時間が減るとかトイレの使い方とか、実験・実習とかがどうしても難しいというのがあって、そして育成会の待機児童の対応とか、こういうことに関しての対応というのは、あわせてそういうことも教育委員会の責任として進めておられるのか聞きたい。</p>

委員	<p>先ほどの質問だが、人数が多いから機会が減っているのかということそうではない。やっぱり10時間というのを確保して、5回は必ず、2時間だけで5回というのは学校でも十分にしている。ただ、プールの大きさはどこの学校も同じなので、1人当たりの所有面積は低い。また、1人当たりの水泳につかっている時間も異なってくる。確かに、西谷小とか、逆瀬台小でいくと、1人当たり1時間でどれぐらいつかっているかということ違ってくと思う。運動場にしても、宝塚第一小はニーズが多いということもあって、コロナ禍での昼休みの利用について学年を限定していた。ただ、これをすることによって、衝突事故とかが減った。今まで、たくさん子ども達が出たことによって、衝突事故が非常に増えた。20分休みになると、10数人がぶつかりましたということで保健室がいっぱいになった時代もあったと聞いている。それがかなり減っているということに関しては、いい意味でよかったと思う。後は、子ども達が休み時間に何しているかというと、教室の中でタブレットを使ってタイピングをしたり、図書室に行ったりと、それから、地域の方々にご協力をいただいているが、図書ボランティアの方に来ていただいて活動してもらったり、逆に教室にまで来ていただいたり、そうやって地域の方にご協力いただいて、外に出れない時もそういう対応ができています。</p> <p>先ほどのもっと学校の特色をとということで、事務局がおっしゃったが、なかなか公立学校でむちゃくちゃすごいことをというのはできづらい。決められた中でということだが、何か工夫していることとか、地域の方々に支えられていることとかについては、学校のホームページで、こういうことがありましたよということはお伝えさせてもらっているんで、そういうところで見ただけならなと思う。学校側としては、そういう発信をどの学校もしていると思うが、発信をしっかりしていく必要があると思う。</p> <p>新入生に対して、弾力的運用の説明となると、入学説明会を年に1回、1・2月頃に実施しているが、これは本校に在籍するという保護者の方を対象に実施している。説明が必要ということであれば、入学説明会で宝塚第一小はこういう特色がある、デメリットがあるという説明をする場があるのかなと思うが、そしたら、西山小にしても逆瀬台小にしても年間もう1回、そういう説明会をする必要が出てくる。そこは、ちょっと学校行事等のことを考えると、なかなか学校が主体的に保護者を集めて、実施するのは難しい。現状そのような感じである。</p>
委員	学校というよりも教育委員会？
委員	入学説明会は学校が主催。
委員	それは分かる。選択してもらいたいということを考えれば、教育委員会が実施すればいいのではと感じた。
委員	私が発言したのは、私が学校長として、何かアピールするとしたらホームページだけど、新入生であったらこの新入学説明会であれば、よりリアルに話ができるのかなと思ったということである。

委員	<p>教育委員会は児童数を把握できますよね。逆瀬台小とかと格差がある。学校の魅力だったり、そういう感じの説明会とか教育委員会から説明することでは。</p>
事務局	<p>市の方としても、この学校は人数が多いからよろしくないですよというのは、なかなかホームページとかでは公開できない。</p> <p>ただ、その説明会は教育委員会で去年の夏にやっているの、当然それは目指すべきことという認識は持っている。ただ、難しいのは、突然にその説明というのが、その裏には何があるのかと誤解を招く恐れがある。特に宝塚第一小の場合は、この中でもいろんな意見があるように、校区変更区のある方というのは、過去からも何度か行政側から提案をし、校区変更ができていない実態がある。このテーマになるようなことはやっぱり慎重に対応していかないといけなかったの、今回は弾力的運用という視点から、説明会を複数回行い、そういう機会を通じて、積極的に今の教育的な課題であるとか、或いはその内規模の小さい学校に行けば、どういう効果があるのかということ、発信していきたいと思う。丁寧に取り組んでいかなければならないことと考えている。</p>
委員	<p>入学して初っ端に、その弾力的運用で他の学校行けますよというのは、行ってもいいなと思う人が果たしているのかなと思う。宝塚第一小に入学するために様々な準備をして行っているわけだから、入学する前の段階、就学時健診だとか、どこの学校にするかというところの段階で、しっかりと市教委が説明をして、それでも宝塚第一小を選ばれるのであれば、そこは仕方がないと思う。やっぱり新1年生は弾力的運用で他の学校に移りましょうというのはなかなか難しく、弾力的運用をするのであれば、在校生というのが現実的ではないか。</p>
事務局	<p>新1年生の方に関しては、7月から8月ぐらいに調査をかけて、在校生が秋ぐらいといったスケジュール感で実施している。</p>
委員	<p>ただ、それを1回じゃなくて継続的に。新1年生に対して、最初の段階でやっていただく必要があると思う。入学してからはなかなか難しいと思う。</p>
委員	<p>入学してからではなくて、入学する前という感じで私は言ったが。</p>
委員長	<p>マンション関係の自治会さんを回っていると、今度、校区選択制になるんですねっていう声は時々聞く。少し浸透してきたかなと。学校がこういう問題を抱えていますよということが、広がってきている感じがする。前回の適正化委員会のまとめの中で、この校区において人口の急増を招いたのは、開発抑制策をとらなかったことが原因であるということで、原因の1つとして謳われている。先ほど、マンションではなく宅地開発で、いろんなところで10件とか5件とか増えていて、結構住民人口が増えそうな要因もある。あわせてこの辺りはどのように考えているか。</p> <p>つまり、条例化はできないが、抑制のための対策、いわゆる指導とか、そういった形をもう少し強くしていくというような考え方等、あわせてこの辺りはいかがか。</p>

事務局	<p>局地的に大規模な住宅が開発されるというのは、震災後の特徴かなと思う。宝塚第一小校区だけではなく、宝塚小学校区、長尾地区等、局地的に人口が増えている傾向にあつて、開発されるところが限定的になってきている実態がある。そこに開発の規制をかけていくというのは、西宮市さんが大社地区で一時期人が増えたことで、平成14、5年ぐらいで今から20年ほど前の話だが、開発規制まではいかないが、極力控えてもらうような対策を講じられてきた。法律的な禁止事項ではないので、開発はできるが、開発をすると、ホームページに掲載するとか。企業イメージにも関係してくるから、大きなデベロッパーは開発から遠のいていくということで、一定の効果はあると思う。</p> <p>ただ、それができていなかったというところだが、今後、この対策をとる場合に、開発業者からの訴えも一方ではあるので、そこは少しうちの方の弁護士とも含めて、検討していかないといけないという認識があつて、その辺は庁内で話し合いをしている。</p> <p>ただ、全市的に見ると、人口が大きく減ってくる時代を迎える。人口構成も変わってきて、若年層が非常に減る一方、高齢の方が割合として増えてくる。このような時代を迎えるにあつて、若年層をどんどん入れていくといった時に、この局地的な開発地以外で人口を取り入れていくというのが非常に難しいところがあつて、この宝塚第一小、宝塚小、長尾小に負担をかけながら、人口を維持するような対策になっているので、総合的に人口をどうしていくのかということも含めたところで、検討していかないといけないといったところで、今模索しているところである。</p>
委員	<p>この新年度、学童の待機児童が、3・4年生を中心に70人から80人になるという見込みを伺っている。その待機児童の方たちは、平時は何とか放課後、2、3時間のお留守番で済むので、家庭で何とか乗り切ろうと。ただ、夏休みに関しては、長い40日間をどのように待機児童になった子どもたちを過ごさせようと、今、各保護者が頭を悩ませている。学校の空き教室などがあれば、そこを夏休みに特別な学童保育として開放し、そこから市の子ども未来部の管轄で、ファミリーサポートなどの人材を派遣し、子どもを見守っていただきながら、放課後夏休みの教室を開放するというのも、以前はあつたと伺っているが、現状、宝塚第一小では、夏休みに開放するスペースがないということ伺っている。私たちの時代と違って、働くお母さんが本当に普通になってきており、ますますこの問題が今後出てくるとなると、1つの解決策として、やはり教室の増築で、開放していただける教室が必要。人口抑制が難しいとなると、宝塚第一小校区の若年層の増加に伴う対策というのは、小学校の設備等からもご検討いただきたい。</p>
委員長	<p>今のご意見に対してどうか。</p>
事務局	<p>この放課後児童クラブは国のこども家庭庁が所管しているが、もう待機児童対策でいろんな拡充も含めて対応しているが、大分人手が足りないということで、場所があつても人がない、或いは人があつても場所がないということでうまくマッチングしないという実態があつて、非常に困っている状況だが、実は、令和5年12月25日付で国から通知が出ている。その中にはいろんな公共施設、特に学校となってくるが、その空きス</p>

	<p>ペースを有効活用し、また、いろんな人材を活用し、子どもの居場所というものを検討してくださいということで。これは、こども家庭庁を所管するところの本市で言う子ども未来部だけではなく、文部科学省から教育委員会に対しても、しっかりと考えてくださいという通知が出ている。今、教育委員会としても検討していて、幼稚園というスペースを活用して、例えば、幼稚園の預かり保育の中に低学年をまず預かることができないかとか、或いは夏休み中に仕事がなくなる職員をどう活用していくのかということ等、何らかの方策ができないかということで検討している。そこで発生する人件費は、国の補助金を使ってできるようなどころもあるので、国の方策でもって、具体的に検討していきたいと考えている。</p> <p>ただ、4月からは難しい。育成会は4月から夏休みが終わるまで待機児童が多く、2学期ぐらいから少し穏やかになっていくと聞いていて、その期間を集中的に対応しないといけないが、できたら7月ぐらいから何らかの対応ができるように検討していきたい。あわせて、地域の力も別で活用することも検討していきたいということなので、具体的には、コミュニティスクールを活用した検討とあるので、どんなことができるかというのはまだ分からないが、皆さんのお知恵をお借りするということであれば、また色々ご意見をお聞かせいただきたい。</p>
委員	アンケート調査された対象者数の新1年生182人、対して資料の裏面の令和6年度の1年生150人と違う。これはどういうことか。
事務局	私立に進まれる方とかもいらっしゃるの、その差分になる。
委員	校区内の私立行く人も含めての数字ということか。
事務局	そうです。私立の結果が出てきているので、今のところ見込みで150名が入学されるだろうと。
委員	これに1クラスの上限人数を教えてほしい。
事務局	現時点で1年生から4年生までが35人学級になりまして、来年度、5年生が35人学級になるが、6年生は40人学級のままである。
事務局	<p>ただ、毎年1学年ずつ35人学級が上がってきているので、この令和6年度の6年生が最後の小学校の40人学級で、5年生は、そのまま35人学級が継承される。</p> <p>この資料2の表の見方について、児童数というのは、今年度の見込み数ということだが、住民基本台帳上の数字から、後、私立学校に行くという届けが大体1月ぐらいに入ってくるので、そこから1月末の段階で分かっている転出予定者と転入予定者を入れている。後、3月中旬時点との数字となると、もう少し精度の高い見込みが出てくる。ここから多少はやっぱり変わっている。</p> <p>で、その児童数の横に書いている最大受け入れ人数というのが、今ご質問にあったよ</p>

	<p>うに、学級数×1学級当たりの最大の人数で、1年生から5年生が35人、6年生が40人に掛けた数字になる。受け入れ可能数というのが、今の児童数からさらに何人だったら受け入れができるかという数字。だから4年生を見ると、後2人。3人来ると、学級数が6になるので、教室が1つ必要になってくるところから、学級数の変化がなく、受け入れできるのが最大で93人ということ。</p>
委員	<p>放課後児童クラブで待機児童の人数が9月頃に減るというのは違うと思う。それまでに何とか対策をするしかないということで対策をとられて、待機が減っているだけだと思うので、人数が減ったという言い方は違う。そもそも待機児童に手を上げたいけど、諦めてあげていない人もいる上に、9月時点でもうこれはあかんわということで、減っていると捉えてもらいたい。</p>
事務局	<p>夏休み終わりから待機児童が減るという話は、令和5年12月25日の国からの通知の中に、この期間の待機児童が非常に多いという記載がある。宝塚市が同じ傾向かどうかというのは担当者に聞くと、同じような傾向ということだが、どの程度減るのかといったところまでは掴んでいない。あくまでも国の全国的な話。</p>
委員	<p>いや、減る＝解決じゃないというふうに思っていた方がありがたい。最初から手を挙げない人もいるという。現状、これだけ児童数が多くて、そして共働きの例が多くて、おじいちゃん、おばあちゃんも働いていたりするという中で、あって当然のニーズだと思うので、そこをちょっと残しておいて欲しいなと思う。</p>
委員	<p>私は、子どもを学童に入れていたが、4年生から出なくてはいけないから、3年生の夏休みが終わると、皆さんちょっとずつ家で過ごすことを慣らすために辞めていくということもある。一概にそれだからいいというわけではないが、一応、皆さん少しずつそういうふうに、家庭での過ごし方というものを学ばせようとしていて、出ていくというものもある。</p>
委員	<p>宝塚第一小は、今、教室の余裕がないとかゆとりがないという話を聞いているが、今後の方針としては仮設なのか、本校舎は難しいと思うが、増築することと、この弾力的運用も並行してやるということ。後、弾力的運用は現在始めて、来年度も引き続き、新1年生が対象なのか、在校生なのか、そこら辺の問題もあるかと思うが。増築に関しては、ここ数年間、予算が立てば、可能なことなのか、実際にそれを増築するという決定がどういう形でできて、何年後ぐらいを見越しておられるのかということと、後、校区変更となると、ただ人数が多いから、校区変更しますという意味では、なかなか実現難しいのかなと思う。以前、お聞きしたのが小中一貫の方向に、今、国全体として進んでいくということで、さっきの小学校の弾力的運用でも、こっちの小学校に行くと、中学校はまた元の校区の中学校っていう形のそういう問題も出てきているようだが。その校区変更に関しても、小中一貫を見据えた上での校区変更を考えるのか、また、人数抑制策で校区変更を考えていくのか。そこら辺がちょっと明確にならないと、ただ校区変更</p>

	<p>しますという部分ではなかなか。何年後かして、小中一貫でまた校区変更というわけにはいかないと思うので、その前提をどこに置いて計画を立てていくのか、どういう感じでお考えなのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>テーマ的に言うと、3の議題なので、3の議題に移るでよいか。</p>
委員長	<p>流れとしてはもう繋がっているので、願います。</p>
事務局	<p>まず、増築から話すと、実は増築にはいろんな規制がある。火事があった時のためと思われるが、既存の建物から5メートル離して建てなければいけないこと。5メートル離して建てないといけないので、例えば、新しい職員室がある方の校舎と旧館の間にスペースがあると、でも、両方から5メートル離さなきゃいけないので、建てることができない。後、運動場に建てるにしても、今のプレハブ校舎とも距離をあけないといけない問題と、育成会の建物との距離を空けないといけないというのもあるので、本当に一定の距離を確保しようとする、プレハブがある反対面の方の運動場に建てないといけないという状況になってくるから、運動場が事実上なくなってしまうということになる。今度は、学校の山側のプールの横辺り、或いはそのプールでも子ども用のちっちゃいプールを埋め立ててそこにという場合には、本当に少しだけの教室しか取れないという、そんな状況になってくるが、子どもたちが増えれば校区変更、というのは本当に大きな課題があるので、一般的には、仮設校舎で対応してきているというのが他校も含めて、それが今の仮設。それでは対応しきれなくなってしまう可能性があるということだが、仮設の場合は早ければ1年、一般的な契約ルートでいくと2年で設置は可能ということになる。</p> <p>で、先ほど話があった、校区変更と小中一貫という関係性の話になってくるが、小中一貫については、市としてまだ具体的な方向性は出ておらず、何かに基づいてこの小中一貫教育について検討していきましょうということではないが、もう2016年（平成28年）に法律が改正されている。</p> <p>今までは昭和22年に改正された学校教育法で、これが63、34制で、小学校6年生、中学校3年生ということをして義務教育として区分しているのだが、平成28年にこの6年間と3年間を合わせた9年間で、1つの学校としては義務教育学校という考え方が出てきている。これはいろんな理由があって、義務教育学校というものが出てきているが、昭和22年というのは、なかなか皆さんも経験ないので分からないと思うが、いろいろと今まで学んできたことを想像していただくと、今の環境と大きく違う。そもそもネットワークもないし、テレビもどこの家庭にもあるという、いつでも見れるという環境にもないということで、いろんな情報量とか環境が大きく変わっている。食生活も変わってきて、子どもたちの成長が大きく変化してきて、昭和20年当時の12歳と今の10歳ぐらいが同じぐらいではないか、これは体のつくりもそうで、考え方も同じだというふうに言われている。2歳若くなってきており、言い換えれば、10歳の子が中学校に行っても勉強してもいいぐらいの時代が変わってきている。</p> <p>そうしたこともあって、小学校でも一部教科担任制というものが入ってきている。昔</p>

は、音楽とか図工とか、こういった教科が専科という先生がいて、特別に高学年はそういう専科の先生が教えてきたが、今は、英語に始まって、理科数学体育。学校の規模によっては、そういう専科の先生が入ってきている。いわゆる中学校の先生が入ってきて、教科担任制の中で勉強していつているということがあって、少しずつ教育システムを変えてはいるが、根本的には、変えていくことができていない実態があって、そこをこれから、それぞれの自治体では目指していこうとして、この近辺では、京都市が大きく舵取りを変えて小中一貫とした義務教育学校に取り組んでいる。西宮市では、浜の方の学校で、小規模化した学校で小中一貫教育に取り組んでいる。この阪神間ではそれほど大きな取組はないが、同じ兵庫県であれば、姫路市が積極的に取り組んでいるが、そういう2年間のずれを修正するために、教育環境を変えるために、義務教育学校制度に舵取りをしている。

後、不登校の子どもの数が、中学校に入ると急激に増えることから中1ギャップという言葉が出てきたが、今は5年生から急激に増えている。ですから、そういうことで、2年若返ってきている、そこを9年生の学校でもって、対応していければと思っている。

そういう考え方が将来あるのであれば、それも見越して校区変更を考えてはどうかというのが、委員のお話だったと思う。今、小中一貫教育というプランがないので、小中一貫教育をするための校区変更ということができないが、当然それも見越した校区編成の仕方というものが必要でないかなと思う。荒っぽい話でいくと、1つの学校で9年間だから、中学校区が少し狭くなっていく。宝塚第一小を使った9年生の学校、光ヶ丘中学校を使った9年生の学校、宝梅中学校を使った9年生の学校、南下をすれば、この地域の小学生をうまく均等に割っていくこともできるということだが、ただ光ヶ丘中学校は、月見山から中学生だから行くことができるが、それが小学生となるとなかなか難しいのでは。

委員

長寿ガ丘、月見山は宝塚第一小に行くより光ヶ丘の方が近いから大丈夫なので、その方がよいのではないかな。

事務局

簡単に言うと、そんなイメージで、最寄りの学校に9年間通えるようになると。そういうふうにしてしまえば、校区変更というものも、今の宝塚第一小の校区変更という問題から少し離れたところで、公平に検討ができるのではないかなというそんなお話だったと思う。

委員長

今話を申し上げると、最終的な着地点は、要するに、義務教育学校、小中一貫校ということだが、その過程の中に、現状の巨大校である宝塚第一小の学校選択制を皆さんに認識していただいて、その次の対策として、増築の問題、或いは校区変更。それで、一番現実的な話として、来年の4月、下の320戸あまりの分譲が始まる。来年の就学前の児童数は、去年4月のデータで185人いるので、おそらく今年とあまり変わらない。さらに増えるということが予想されるが、来年に備えて、対応というのはどう考えているのか。

事務局	<p>令和7年度の対応ですね。阪急阪神不動産がどういう目的で販売しているのかも含めて、聞き取りをしている。住む目的であれば、まさにそのご家族の状況で、住む目的ではなく、それを資産として運用していこうということであれば賃貸住宅と化すので、その先は見えない。ですから、まずはその動向をしっかりと受けとめていかないといけないので、その過程の中で、もし超えてしまう可能性があるということであれば、臨時的なプレハブをどこかに建設を。実は教室数もそれほど大きく外れるとは見込んでいない。そういう対応も具体的に検討していかなければいけないと思っている。校区変更というのは、なかなか厳しいところがあって、時間がかかるということと、後、その校区境界付近というのも、人口が画期的に多いわけではない。だから、そういう意味もあって、目に見える形に人口を減らしていこうとすると、宝塚第一小まで末広小か、西山小に入れれないといけないぐらいの大きな線引きが必要になってくる。そこも見比べながら検討するとなれば、まずはプレハブか何かのわずかな増築をした中での対応をして、少し延命する中で、根本的な検討をしていかないといけないのかなと、今の段階では考えている。</p>
委員	<p>先ほど事務局がおっしゃった増築の関係でプールの話があったが、校長先生から、今、市でもお考えになっていることを聞いたことがある。熱中症対策や雨天の場合にプールが中止になることや、水道代とかコストの問題、プールにバスか何かで、というようなことも、市では検討されているということを知った。そのプールの横のちっちゃいところではなく、もうプール全体、あの場所でプレハブなりを建てていただいて、プールはその違う場所となれば、プールの授業も確保できるし、スペースも確保できるし、運動場も確保できるということになるので、もし、それが可能であるならば、そのプールのところを検討していただく。熱中症にも関係なく、屋内プールに学校からバスで行ける。水道代とかコストのことを考えたらそっちの方が安いんですね。</p>
事務局	<p>決まったわけではなく、私が勝手に言ってるだけのレベルである。そのレベルだが、各学校のプールは学校ができたときから、大体改修工事することなく、維持してきていて、その水道代も高く、いっぱい入れると、後半の何十万ぐらいの水道代がかかる。プールを維持するのに大体5000万円、年間にかかってくる。その5000万円を使って、それに水道代が入ってくるから、おそらく1億ぐらいはかかってくる。プールは基本的に1学年10時間で、それを2時間単位でやるので、5日間入っていただくことになる。夏の1時期だが、今、委員からお話があったように、熱中症指数が高い時にはプールに入れない。変更できたらいいが、後半はなかなか変更できないので、入れないということがある。そして、10コマ入らないといけないのかというと、プールは必須ではない。他の授業に変えることができるので、減った分を別の授業でもって補填するということだから、子どもが楽しみにしているプールというのは時数が減ってってしまうというのが、今の状況としてある。そうしたことを解消するためにも、いわゆる民間プールを活用して、1年間、温水プールのため、授業ができる。観光バスの安い時期に、観光バスをチャーターして、各学校順番に回って運んでいけば、ランニングコストとしての1億ぐらいの中でも十分対応できる。それで、そろそろプールも根本的に改修工事をしな</p>

<p>委員長</p>	<p>いといけないが、これも億単位のお金がかかる。そういう今後の投資を考えていくと、今、委員がおっしゃっていただいたような、民間プールを活用したプール展開というのは、検討していかないといけないなと思っている。ただ、まだ正式決定してないが。そういう意味で考えると、プールの上に仮設校舎を建てると、十分な面積を確保できるので、有効かなと思う。それも含めてまた検討していきたい。</p> <p>ということは、そういう選択肢もあるということか。あくまでも案だが、1つの選択ということで使えと。それは別に悪い話じゃないと思う。</p> <p>まだご発言がない方も、もしあればお願いできたらと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>プレハブの話で、今の技術であれば、プレハブといっても立派な、簡易でありながらも立派なというのがあるはず。詳しくは知らないが。被災の仮設住宅であっても、阪神淡路大震災の時と今の仮設住宅はもう大きく変わってきている。そういう技術的な躍進があれば、そのプレハブやからみみたいなイメージは頭から消えて、コストも安く、ちゃんとしたものができるのではと思った。</p>
<p>事務局</p>	<p>やはりプレハブでもピンキリある。なぜああいう形態のプレハブになってしまっているかと言いますと、公共施設の改修には、国のお金というものをもらっている。特に学校というのは、一定法律で、規制されているので、国から2分の1の補助金があったり、交付金があったりで、建設をしていっているが、プレハブで一時期をしのぐ分には、一円も交付金はでない。全額市のお金で建てないといけないことから、少し節約して建設している。普通は運動場に大きな仮設を立てて、本校舎を壊して、そこに校舎を建てるんですが、プレハブが5億円しますので、5億円払うぐらいだったらもう仮設校舎を建てるとここに本校舎を建てて、子どもを移してから、本校舎を壊したというようなこともあって、仮設といえどもやっぱり相当費用負担がかかってくるので、少し安価な今の仮設校舎になっている。</p>
<p>委員</p>	<p>自治会に戻って、14日の会議について説明しようと思ったが、どう説明しようか、分からない。具体的な話が1個もなく。仮設でしのごうという案も出たけど、何年間仮設を置いとくのか、そうすると仮設で何人増やせるのか。本当は800人にしたいという方向があったと思うが、それからはずれてきた話でいいのかどうか。</p> <p>それから、通学区域の変更で、小中一貫教育が出たが、宝梅小中校、宝塚第一小中校、末広小中校、西山小中校、の小中学校ができるんですね。そうしたら、宝塚第一小に来た人が、宝梅に住む子は宝梅小中校へ行けと、こういう話になる。小中一貫いいな、9年いいなと思ったが、よくよく考えたら切り分けであって、解決ではない。もう最初から宝塚第一小をゼロにして、ゼロって宝塚第一小じゃなくて、変な言い方、第百小でもいいけど、第一って名前をとらない限りは、駄目なのかなと思っている。そう考えていくと、自治会戻って役員に何を説明していいのか全く分からない。決まってませんということだけかなと、先ほどから思っている。方向・方針がない。私が今日出て思ったのはそれだけ。</p>

委員長	<p>今のご意見に対してどうか。</p>
事務局	<p>基本にご意見をいただくという機会ですので、それをもって、後から教育委員会として方針を決めていくことにはなってくる。</p> <p>今日、お話をしたかったところは、まずは弾力的運用の結果を報告してそれをどういうふうに分析していくのかというところのお話。それを受けて、画期的に人口が減っていく、子どもの数が減っていくという結果がなかったことから、この人数が維持或いは増えていくというところを想定すれば、増築なのか、校区変更なのか。ただ、校区変更といった時には、将来的な小中一貫校も見据えた校区変更というものも、この子どもたちが溢れたときの対策のために考えておかないといけない。というそうしたことの考え方が、今日整理されたのかなと思うので、報告していただくとすれば、今申し上げた内容になってくるのかなと思う。</p>
委員長	<p>つまり、学校選択制を引き続き踏襲して、来年のマンションの状況によっては、仮設校舎を増設すると。で、将来的には校区変更というのは非常に重たい話ですから、これについては、義務教育校つまり小中一貫校を見据えながら時間をかけてやらざるをえないということによろしいか。</p>
事務局	<p>ただ、建つかどうか、まだちょっと実験したのものでもありませんので。ただ、1つの対応、今までの人口が増えたときの対応の方針としては、プレハブでもって対応してきたので同様の方法であれば、少しそこで受け入れはしておきながら、長期的な対応を検討すべきかなという考えである。</p>
委員	<p>そしたらこの資料2で、令和6年度については、31学級で1017人というのは、最近1月末の実数ですよ。そうすると、最大93人までは、35人学級、基本にすると93人まだ、ぎりぎりやけど、余裕があるよと。これは言えるか。</p>
事務局	<p>そういうことですね。</p>
委員	<p>定員数からいくと93人余裕がある。はい。分かりました。</p>
委員長	<p>最後に委員、何か、ちょっといろいろ取込中のところ申し訳なかった。</p>
委員	<p>資料の2のところですが、実は、新4年生がぎりぎりやったんですが、他市からの転入が実は8人、転出する子もいるので、通常級の子どもたちが176人。1人双子さんがおられたということで。クラスが1クラス増える。今の時点で。教室も増やさないといけなくて、多目的教室を作ったが、そこも使わざる得なくなって。それと、特別支援学級が8になってましたが、新設をしようと思ってる種別のところが、県からは、許可がおりなかったんで7に。今、そんな状態です。</p>

委員長	<p>どうもすいません。突然お願いしまして。</p> <p>一応時間も参りましたので、先ほど、取りまとめたように、今日の話はそんなことで、非常にたくさんの意見が出て、取りまとめ方はなかなか難しいが、議事録を作っていたいて、今後、この会議はいつごろになるか、それからテーマをどうするかというのをまた考えていただきたい。もうだんだんとマンションの完成が近づいている。それから、何度も言うが、1,000人以上を超える課題校というのは、全国で1%しかなくて極めてレアケース。この問題は、いち早く解決するというのは、我々といいますか、地域の住民としても非常に大きな課題というふうに認識しているので、よろしくお願ひしたいと思う。</p> <p>では、これをもって、今回の検討委員会を終了させていただく。ありがとうございました。</p>
-----	---